

臨床福祉専門学校
平成28年度 学校関係者評価委員会 議事録

日時：平成29年3月24日（金）16：30～18：00

場所：臨床福祉専門学校 202 教室

出席委員及び所属

委員長：相原 実（有明スポーツセンター所長）

鈴木 和彦（般若クリニック 医師）

矢内 崇博（PT学科卒業生・同窓会長）

澤田 光毅（ST学科卒業生）

大谷 修（学校長） 石垣 栄司（教務部長） 馬目雪枝（学生委員長）

萬崎 保志（事務部長） 樋口 豊朗（事務局 教務課）

1. 学校長挨拶

本校の目指すところとして、最先端の治療を行うことのできるスペシャリストの育成であり、時代に適応した新しい理論や技術を身に付ける事。

そういった本校の理念・教育方針について、学校関係者の委員の意見を反映して、確固たる中身を形成していく事が最優先の課題とされる。

2. 本会議の重点議題（萬崎）

- ・平成27年度 自己評価報告書の作成に至る経緯

昨年度の学校関係者評価委員会において、学校全体で組織的に取り組んでいるとは言い難く、それに対して改善の要求があった事から、今年度は全体教職員会議の場において、自己評価報告書の趣旨説明を行い、学校長・教務委員会・学生委員会・事務局各課において、作業媒体を広げ作成した経緯の説明を行った。

- ・自己評価の結果における課題

自己評価報告書を作成したものの、各項目に関して全般的に評価結果が悪い。

根本的な原因は、各項目の基準・土台となる、「理念、目的、育成人材像・運営方針・運営組織・意思決定システム」が明確でない事が理由とされる。

本日の会議においては、それに対して重点的に評価を頂きたい。

3. 審議（進行：相原委員長）

基準 1-1「理念・目的・育成人材像」・基準 2-2「運営方針」

基準 2-4-2「運営組織」・基準 2-6「意思決定システム」において

特に自己評価の評定が低い中身を重点的に審議を行う。

・基準 1-1 「理念・目的・育成人材像」

(澤田) 課題として、教職員全体で同じベクトルに向く必要性があると評価している。学園全体としてクレドがあり、各学科の教育目標は見受けられるがそもそもの臨床福祉専門学校という学校全体の理念・教育目標を早急に形成する必要がある。

(矢内) どういった学校でありたいのかをもう 1 度再確認する必要がある。例えば、卒業し現場に出て即戦力と成り得る評価方法・実技を学ぶ、大卒や社会人を中心とした学び直しの学校として強みを出す等。

(相原) 今年度において、学校として何か取組があったのか？

→ (大谷) 学校長指名の教員を集めたワーキンググループを作り理念を追求する場を設けたが、学校としてそれを築きあげるには至らなかった。以後引き続き継続する予定。

冒頭の話にあったように、あくまで校長が示す考えを中心に、それを教職員に広げ、学校としての確固たる理念・目的を形成する必要がある。

(鈴木) 育成人材像における課題として、関連業界から求められる人材像を把握する機会を設ける必要性について、これより高齢化社会になっていく時代であるが、そういった背景に現場で働く医療人がとまどい・孤立感が見受けられる。学校としてその状況を把握し、対策を学生にフィードバックする必要がある。

→ (石垣) 関連業界で働く人材を集めた教育課程編成委員において求められる人材を学校として把握し、各学科それぞれにおける取り組みをしている事を説明。

(鈴木) これから築き上げられる理念・目的に沿った取り組みを引き続き継続する必要がある。

・基準 2-4-2 「運営組織」

(相原) 組織図そのものはあるようだが、それぞれの職制が学校として不明瞭であることから、機能してないように見受けられる。

それぞれの組織の役割・目標・権限を明確化する必要がある。

・基準 2-6 「意思決定システム」において

(相原) 組織運営と重なるが、各部署の職制及び職務分掌を明確化する事が必要とされる。各学科の独自の方針が強いようだが、それを含め障害となる原因から追究してみる必要はある。

3. まとめ（大谷）

本来学校運営をする中では、明確にしている当然の中身であり、これを速やかに形成する事を次年度の最重要課題として受け入れる。

次年度の学校関係者評価委員会はその課題に取り組むと共に、速やかに自己評価を行い、中間報告・振り返りといった形で本委員会を執り行う予定。